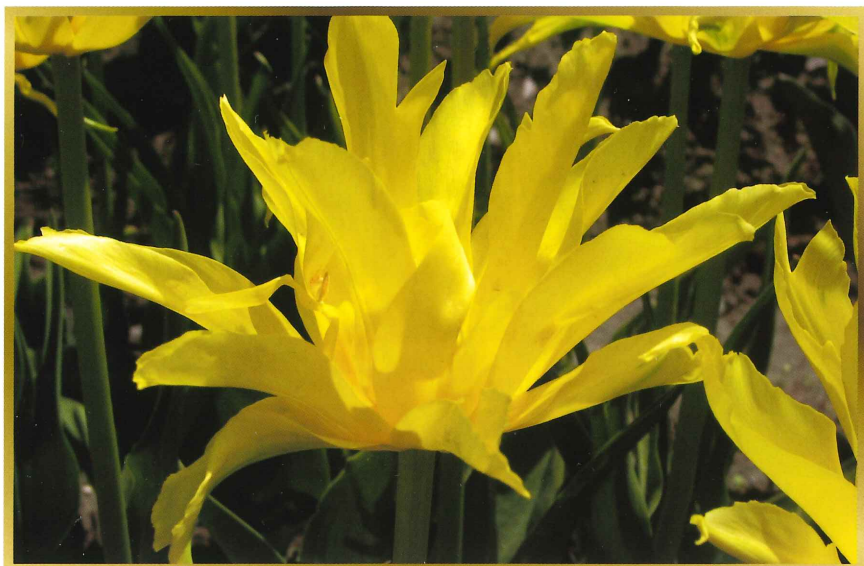


チューリップ 四季だより



▲イエロースパイダー



▲オレンジレディ



▲クミンズ



▲シルバーパーロット



▲リリーファイヤー

10周年記念号
2006 Vol. 36

—チューリップのニューフェイス—

随筆

チューリップ・サミットに参加

財団法人砺波市花と緑の財団理事長

砺波市長

安 念 鉄 夫

チューリップ四季彩館は、砺波市の特産品であるチューリップについて学習できる博物館的な面と、チューリップの花を通年観賞できる植物園的な面を併せ持つ施設として平成八年に建設され、今年で十周年を迎えました。

この間、国内外から二二六万人の来場者があり、多くの皆様にチューリップの魅力に触れていただけたものと存じます。

これまで、当館の運営にご支援、ご協力をいただきました皆様に深く感謝申し上げます。

この節目の年にオーストラリアの首都キャンベラにおいて開催されている、花のまつり、フロリアードにあわせて、世界チューリップ・サミットに参加するよう、日本大使館を通じて招待をいただき、日本を代表して参加いたしました。

本年は、日豪友好年でもあり、日本でチューリップ祭を開催している、砺波市に依頼があり、今後の参考のために参加いたしました。まず、フロリアードを見学いたし

ました。

キャンベラは特別区で、国が直接統治をしており、国が管理している中央公園で開催されておりました。公園の面積は一四ヘクタールと広く、隣接して大きい人工池も配置され、ゆつくりくつろげる公園として、一般市民に開放されております。

チューリップの植込みのほか、各種春の花も咲いており、多くの見物



▲フロリアード会場のチューリップ



▲花の高低を利用した花壇

客が観賞されておりました。チューリップの植込面積や品種はそんなに多くありませんが、高低を利用した花壇で変化があり、芝生広場の活用により工夫してあり日本庭園なども配置してあります。

フロリアードは、一カ月間開催されるため、散りはじめたチューリップの花壇には、パンジーを植えるなど工夫されておりました。

また、会場内のテントでは、草月流の生花展もあり、その外側には、竹によるオブジェが展示され、その他盆



▲竹によるオブジェ

裁などもあり、日本の文化も導入されておりました。

サミットについては、旧の国会議事堂の会議室で行われ、まず朝食会から始まり一日間の日程でした。

最初に、フロリアード事務局を担当されている、ヴィッキー・マンディ女史の挨拶から始まり、日程とプログラムについて説明があり、それぞれ出席者の紹介がありました。

次いで、サミットを主催するフロリアード実行委員会のジュディ・ホートン女史から「花は平和、花はみんなのもの、チューリップは世界の花」との提言があり、植物学者らしい挨拶がありました。

参加国は、オランダ、アメリカ、イギリス、コロンビアと、オーストラリアのメルボルン近郊のビクトリア州及びタスマニア島からで、それぞれの球根生産地の紹介と、そのお祭り事など、DVDを活用して発表されました。また、コーネル大学のビル・ミラー博士が球根と病害虫などについて述べられ、オランダの球根生産と輸出入などについて、ピート・コープマン氏から画像による講話があり、私は、国際交流員のチャブマン君の通訳で拝聴いたしました。

それぞれの特徴を述べられました。私は、当市の二〇〇七年のチューリップフェアのポスターを紹介し、長く続いていることと、球根生



▲となみチューリップフェアを紹介

産地の振興のためのお祭りであり、日本国内に質の良い球根を販売することを述べ、フェア会場の説明では、水上花壇に関心が集まり、チャプマン君が、材料を手にして応対しておりました。水上花壇について関心が高かったようであります。

オーストラリアにおいても、経済の向上とともに、庭づくりが進められ、従来の芝生を中心としたヨーロッパ風の庭園から花をとり入れる花壇の時代であり、公的施設においても緑花木が多くなっております。特に、オーストラリアの原産木を取り入れることに努めるとのことでした。

キャンベラの中央公園には、日本が寄贈した桜（ソメイヨシノ）が

一五〇〇本植えられておりますが、今は散っており、八重桜や花ミズキが樹々の中にわずかに咲いております。

また、新しい公園ですが、森を形成する植樹も進められております。

キャンベラは、人工都市でもあり、ヨーロッパ形式の都市計画で、商業の市街地を除き全体が公園のように感じました。

日本大使館を訪問しましたが、一帯が各国の大使館で厳重なゲートがあり、特徴的な建物がそれぞれ公園の中に設置されているように思いました。

オーストラリアは、うらやましいほどに土地は広大であります。



▲アイリスやポピーとの混植



▲デージーやアイリスとの混植

私は、球根生産者を訪問したいと思っておりましたが、そこは、南オーストラリアで気温も低い地方で遠く、行くことはできませんでしたが、入植された先駆者はオランダ人だと公言されておりました。同様にアメリカのワシントン州の生産者もオランダの二、三世時代とのことでありました。

また、発表の中では、イギリスのスポルディングでは二〇〇八年に世界チューリップ・サミットを開催することで準備を進めていることが紹介されました。

それぞれ生産拡大されておりますが、これからは、アフリカや中南米、中国への輸出を模索しているようです。

あり、開会の冒頭挨拶にあったように、チューリップは世界の花であることを実感いたしました。

なお、当市のチューリップ公園は、観賞としては、品種数も多く植付面積もオーストラリア以上であり、キューケンホフに次いで世界第二位であると確信しました。

なお、フロリアードの運営は、市民や企業の協賛であり、花壇の作付や管理以外は、多くのボランティアによる運営であり、おみやげや花のグッズで運営資金に充てていることは、当市の参考にしたいと思っております。

【略歴】

あんねん てつお



一九三三年生まれ
旧砺波市総務課長、収入役などを歴任後、一九九八年二月、旧砺波市長に就任

二〇〇四年十一月、旧砺波市と旧庄川町が合併して誕生した新「砺波市」の初代市長に就任

Anniversary

～チューリップ四季彩館 Photo History～

平成8年(1996年)4月20日にオープンした
チューリップ四季彩館は、今年で開館10周年
を迎えました。そこで、これまでの10年間で、
花々の展示を中心に写真で振り返ります。

Part1

常設展 ― 季節展示より

チューリップ四季彩館の季節展示室、
チューリップテラスでは、クリスマスや
お正月といった季節行事を取り入れなが
ら、一年中、四季折々の花々で彩ります。



ホワイトシュガーガーデン (2001春)



春おどる (1997春)



21世紀の日本の庭～春風～ (2002春)



高原に遊ぶ (1997夏)

The 10th



花の国のアリス (1999早春)



チューリップ四季彩館 全景



レッドクリスマスガーデン (2001冬)



ホワイトクリスマス (2000冬)



サンタの降りる街 (1996冬)



あの頃は… (1998秋)

～チューリップ四季彩館 Photo History～

Part2
特別企画展より

チューリップ四季彩館では、春・夏・秋・冬の年4回、特別企画展を開催しています。花を取り入れた様々な展示を来場者に楽しんでいただこうと、季節ごとに特徴を持たせています。

多種多様なチューリップを用いた春展示。花や自然をモチーフにした絵画等の夏の企画展。バルーンアート等子供に夢を与える秋展示。そして、冬は一足早く2万本のチューリップで彩る「春を呼ぶチューリップ展」です。



幻想と楽園のハーモニー (1997春)

春季特別企画展



散居の花物語 (2002春)

夏季特別企画展



花と遊ぶ暮らしのガーデニング (1997夏)



越中チューリップ紀行～富山祭時記～ (2004春)

春を呼ぶチューリップ展
(冬季特別企画展)



花の遊園地～チューリップワールドへようこそ～(1999冬)



砺波の春(2003冬)



おやゆび姫の世界(2000冬)



かくれんぼの国
～まぼうの館～(2003秋)



バルーンアート展～花のわくわく動物園～(2001秋)

秋季特別企画展



フラワーコミュニケーション ―花と緑の自由な対話―(1997秋)

チューリップ四季彩館
からのお知らせ

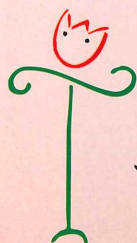
❄ 季節展示 ❄

『 花の歳時記ークリスマス X'mas 』

チューリップ四季彩館開館10周年を記念し、キャンドルのオブジェやサンタクロースとともに、ポインセチアやシクラメン等の花々でフラワーケーキを彩ります。色鮮やかな花々とイルミネーションで演出するロマンチックなクリスマスをお楽しみください。

期 間 11/17(金)～12/26(火)

会 場 チューリップ四季彩館テラス



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2006年11月発行
(財)砺波市花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100-1
TEL 0763-33-7716 FAX 0763-33-0090
URL <http://www.tulipfair.or.jp/>